

開倫塾

塾長 林 明夫

アナウンサー： 開倫ユネスコ協会では色々なイベントをやっていますね。

童話大賞やドッジボール大会などがありますが、このエッセイ大賞というのは、いつ頃から始められているのですか。

林 明夫： これは4～5年前からやっています。

アナウンサー： 「エッセイ大賞」は、毎年テーマを決めているのですか。

林 明夫： ユネスコというのは「心の中に平和のとりでを」という理念を持っていますので、国際連合の教育・文化・科学機構の中で、「平和について、夏、みなさんで考えましょう」ということの1つとしてやらせてもらっています。

アナウンサー： 今回応募のあったエッセイの中にも、人を愛するというのをうったえる作品がたくさんあったということですね。

林 明夫： そうですね。今回は、イラクでも戦争がおきているので、「戦争と平和」ということについて、生徒さんに書いてもらいました。また、一般の方からも、他の塾からも随分応募がありました。

アナウンサー： 全部で何作品ぐらい集まりましたか。

林 明夫： 1901点ですね。2000点近くの作品が寄せられました。ありがとうございました。

アナウンサー： そうしますと、開倫塾の関係する地区ではほとんどのところからですが、県外からの応募もあったということですね。

林 明夫： 東京の塾からも、一般の方からも応募がありまして、ありがとうございました。

アナウンサー： 表彰式は、今度の土曜日に行われるのですか。

林 明夫： 開倫塾にはエッセイ大賞や童話大賞などのコンテストがありますが、その都度、栃木県内の素晴らしい遺跡や博物館など、生徒の皆さんと一緒に勉強していきたいところを訪ね歩いて、表彰式をやらせてもらっています。

今回は栃木県立博物館で行います。表彰式が終わってから学芸員さんに説明をしていただいて、その後ディスカッション等行っていきたいと思っています。

アナウンサー： 表彰を受けられる該当作品は全部で何点ぐらいありますか。

林 明夫： 1901 点中 63 作品を入選ということで選ばさせていただきました。

アナウンサー： 最優秀賞はどなたになったのですか。

林 明夫： 鹿沼西中 3 年生の松本なみさんという生徒さんです。「戦争から学んだこと」というテーマで素晴らしい文章を書いてくれました。

アナウンサー： 当日の表彰式では、そのエッセイを紹介することになるのですか。

林 明夫： 会場にいらした方には原文をお渡しし、それから開倫塾のホームページでも紹介していきたいと思います。開倫ユネスコ協会にもホームページがありますので、開倫塾、開倫ユネスコ協会を検索していただきますと、10 日以降、表彰式の直後から入賞作品をご覧いただけるようになっています。

アナウンサー： 林さんも作品をご覧になったと思いますが、どんなことを感じられましたか。

林 明夫： 開倫塾では今、新聞を読もうということ、開倫塾の 15 の躰の中の 1 つとして 6 月から実施しています。できれば小学生は 1 日 30 分、中学生は 40 分、高校生は 1 時間位新聞を読んで物事を考えようということで始め、だいぶ生徒さん達が新聞を読むようになってきました。生徒さんたちは、新聞を読んだり、栃木放送や TV などから情報を得た上で、一生懸命書いてくれていますし、自分の想像性を発揮しながら書いてくれています。すばらしいと思います。

感じたまま書くのと、情報を得た上で書くのとでは、随分違うと思います。それが今回の向上したところでは。

アナウンサー： エッセイとして出すには、何回か推敲することにもなりますね。

林 明夫： そうですね。自分でしたり、友達に読んでもらったりする方もいると思いますけれど。要するに、考える子供を育てたいというのが今回の眼目ですね。リテラシー ディケイド、今ユネスコ、国連ではインターナショナル リテラシー ディケイド (International Literacy Decade) と言いまして、2003 年から 2013 年までの 10 年間で識字率を上げようという世界的な取り組みをしていますが、その一環としてもやっています。

アナウンサー： ありがとうございます。